学校番号	T1202

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	生活文化	単位数	２単位	年次	２～４年次
使用教科書	「家庭基礎　気づく力 築く未来」実教出版（１年次使用教科書）						
副教材等	自主製作教材・プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○家庭生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう
・生活の様々な現象や課題をワークショップや演習等を通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

2　学習の到達目標

【知識及び技術】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技術を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	衣食住・消費生活のそれぞれについて、体系的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。	衣食住・消費生活に関して、ライフスタイルの多様化、情報化、少子高齢化、環境問題など、様々な視点から生活を見つめなおし、それを更に良いものしていくにはどうすればよいかを考える。	衣食住・消費生活に関して、自らの生活を、自らが進んでより良いものにしていく。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	消費生活	○消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 経済的に自立する ・経済の仕組みを知る ・ライフステージと経済計画	a:消費生活において、その重要性について理解でき、知識を身につけている。 b:消費生活において、具体的な事例を通して課題を見出し、自ら主体的に判断することができる。 c:消費生活において現在の自分の状況も踏まえ、将来の自分の状況も考えることができるように意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 定期考査 単元小テスト	作品発表 実習レポート	学習状況 振り返りシート 発表 自己評価
	食生活	○食生活をつくる ・私たちの食生活 ・栄養と食品 ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理	a:食生活において、その重要性について理解でき、知識を身につけている。 b:食生活において、具体的な食生活を通して課題を見出し、自ら主体的に判断することができる。 c:食生活において、現在の自分の食生活も踏まえ、将来の自分の食生活も考えることができるように意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 定期考査 単元小テスト	実習作品 作品発表 実習レポート	学習状況 振り返りシート 発表 自己評価
後期	衣生活	○衣生活をつくる ・人と衣服 ・衣服の素材 ・衣生活の管理	a:衣生活において、その重要性について理解でき、知識を身につけている。 b:衣生活において、具体的な衣生活を通して課題を見出し、自ら主体的に判断することができる。 c:衣生活において、現在の自分の衣生活も踏まえ、将来の自分の衣生活も考えることができるように意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 定期考査 単元小テスト	実習作品 作品発表 実習レポート	学習状況 振り返りシート 発表 自己評価
	住生活	○住生活をつくる ・人と住まい ・住まいを計画する ・健康的な住まい環境 ・安全な住まい環境	a:住生活において、その重要性について理解でき、知識を身に着けている。 b:住生活において、具体的な住生活を通して課題を見出し、自ら主体的に判断することができる。 c:住生活において、現在の自分の住生活も踏まえ、将来の自分の住生活も考えることができるように意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 定期考査 単元小テスト	実習作品 作品発表 実習レポート	学習状況 振り返りシート 発表 自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度